

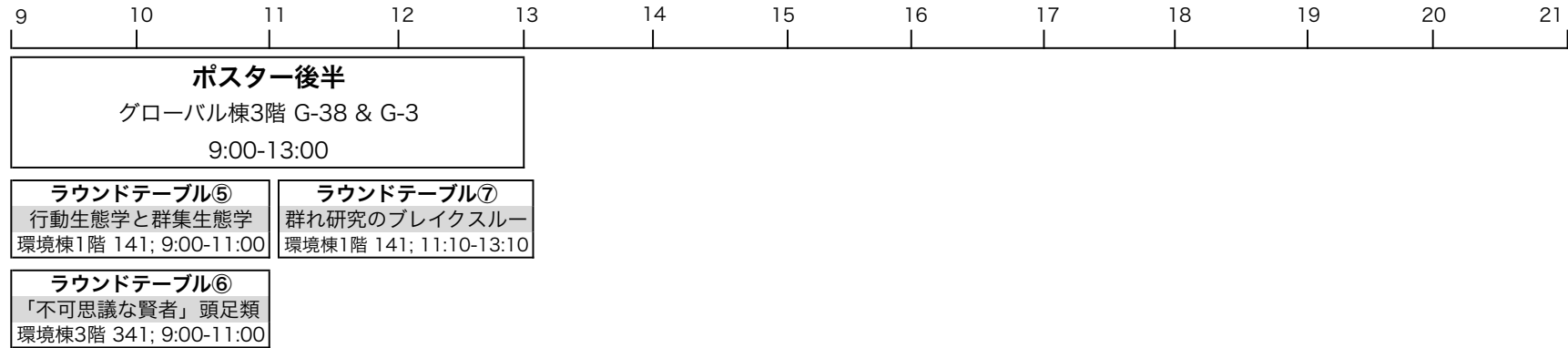
11月1日  
(土)



11月2日  
(日)



11月3日  
(月)



# ラウンドテーブル

## ラウンドテーブル①

### 雌による密かな配偶者選択への挑戦

日時：11月1日（土）15：00～17：00

会場：環境棟3階 341

主催者：佐藤成祥（長崎大・院・水環）

企画趣旨：

雌による密かな配偶者選択（Cryptic Female Choice: CFC）は、1990年代から2000年代にかけて徐々に広まっていったテーマである。雌は交尾前だけでなく、交尾後にも配偶者選択を行うという画期的な内容で、かつては性選択の分野を大いに沸かせた。しかし、その熱狂も今は昔の話。検証が難しいためか、同じ交尾後の性選択過程である精子競争のような広がりを見せることは無かった。ただこのCFC、このまま埋もれるようなテーマではない。研究の数は少ないものの、最新の研究の多くは行動生態学に大きなインパクトを与えており、未だ多くのお宝が隠されているのである。このラウンドテーブルでは、異なる動物群で起こる様々なCFCメカニズムについて、行動レベルから細胞レベルまでの幅広いアプローチによる研究成果を紹介する。本ラウンドテーブルを通して、CFCの検証の困難さをどう乗り越えていくのか、乗り越えた先に何があるのか、今後の展望について議論していきたい。

1. 佐藤成祥（長崎大・院・水環）

**「ヒメイカの雌による精子塊排除」**

2. 安房田 智司（新潟大・理・臨海）

**「クサビ型の巣が決め手：協同的一妻多夫魚の雌による父性の操作」**

3. 佐藤 綾（東京学芸大・教育）

**「グッピーにおける雌の配偶者選択とCFC」**

4. 笹浪知宏（静岡大・院・農）

**「鳥類の輸卵管における受精戦略」**

5. 河野 菜摘子（成育医療セ・生殖細胞）

**「精漿タンパク質SVS2を用いたメス生殖器におけるマウス精子のサバイバル術」**

## ラウンドテーブル②

# 生物の行動を応用する

日時：11月1日（土）15：00～17：00

会場：環境棟4階 442

主催者：鶴井香織（沖縄防技セ/琉球産経/琉大農・昆虫）

企画趣旨：

行動生態学・動物行動学は、種内・種間および生物と環境の間の相互作用が生物行動を適応進化させる様子を明らかにしてきた。逆に、近年では、行動を含む適応形質の進化が種々の相互作用を変化させ、個体群サイズや群集の性質などのより高次のレベルの生態的性質に影響を与える可能性が見出されている。つまり、生物行動の理解は、適応進化の理解だけでなく、個体群動態や群集の性質といった、生態系システム全般に関する理解へと波及する可能性がある。このことは、ある対象種の個体数制御や予測、対象種をとりまく群集の管理などが関心事となる応用的な場面においても、行動学的アプローチが有効であることを示唆している。本ラウンドテーブルでは、摂食行動・繁殖行動・捕食回避行動それぞれと関連する種内または種間相互作用を、個体数制御、すなわち、有害生物数の抑圧または有益生物の保護に利用する例を紹介する。そして、本ラウンドテーブルを通じ、行動生態学・動物行動学的知識が農林水産業や生態系保全などに大きく貢献できる可能性について考えたい。

1. 鶴井香織（沖縄防技セ/琉球産経/琉大農・昆虫）  
**「行動学的アイデアで応用現場を盛り上げる」**
2. 原村隆司（京都大・白眉セ）  
**「オオヒキガエルおたまじゃくしの共食い行動を利用した防除」**
3. 熊野了州（沖縄防技セ/琉球産経/琉大農・昆虫）  
**「不妊虫放飼法における交尾競争能力の評価」**
4. 西田隆義（滋賀県大・環境生態）  
**「繁殖干渉を利用して害虫を抑える：東南アジアのミバエ類への応用」**
5. 河端雄毅（長崎大・海セ）  
**「行動特性に基づいたシロクラベラ人工放流魚の被食軽減策の開発」**

## ラウンドテーブル③

# ヒトの行動生態学：一見すると非適応的な現象に切り込む

日時：11月1日（土）17：10～19：10

会場：環境棟1階 141

主催者：森田理仁・長谷川 眞理子（総研大・先導科学）

企画趣旨：

ヒトの行動の中には、一見すると適応度の最大化の理論ではうまく説明できないように思われるものも多く含まれる。そのため、行動生態学の枠組みをヒトに適用する研究は挑戦的で興味深い。しかしながら、日本ではhuman behavioral ecologyの研究はあまり盛んとは言えず、それを知り、議論する機会も少ないのが現状である。本ラウンドテーブルでは、最初にヒトの行動に対するさまざまな進化生物学的アプローチを概説した後、少子化、児童虐待、更年期症状、自殺といった非適応的に見える現象について、社会科学におけるアプローチとの違いに触れつつ、行動生態学の理論を用いた研究成果を紹介する。そして、最後には会場からの指摘や批判を取り入れながら、行動生態学や動物行動学一般のなかでヒトの行動の進化に関する研究の質を高め、魅力的な学問分野とするためには何が必要かについても議論したい。動物行動学会参加者の大多数を占める、ヒト以外の動物を研究対象とされている方々にも楽しんでいただけるような企画を目指している。

1. 森田理仁（総研大/JSPS）  
「ヒトの行動に対するさまざまな進化生物学的アプローチ・趣旨説明」
2. 森田理仁・大槻 久・長谷川 眞理子（総研大）  
「少子化は行動生態学から見てパラドックスか？ 子どもの数や出産に影響を与える要因に注目して」
3. 長谷川 眞理子（総研大）  
「ヒトの繁殖戦略と児童虐待」
4. 大槻 久（総研大）・Francisco Ubeda（Royal Holloway, University of London）・Andy Gardner（University of St. Andrews）  
「ゲノム間コンフリクトから更年期症状を説明する」
5. 長谷川 寿一（東京大）・長谷川 眞理子（総研大）  
「ストレス反応とヒトの進化環境から見た自殺」  
※長谷川 寿一が参加不可能となった場合は長谷川 眞理子が発表
6. 総合討論

## ラウンドテーブル④

### 性的共食いはなぜ起こるのか？

日時：11月1日（土）17：10～19：10

会場：環境棟4階 441

主催者：中嶋康裕（日大経済）

企画趣旨：

性的共食いとは配偶時に特異的に発生する共食い現象を指し、カマキリやコガネグモでよく研究されている。これらの例では、それ以降の配偶機会がほとんどあるいは全くない♂が、自らを餌資源として提供して最終配偶相手の♀の産卵数を増やすことが有利にはたらくと考えられている。同時雌雄同体のウミウシの一種キヌハダモドキでも配偶時に共食いを行うことが知られていたが、これが偶発的な行動ではなく、配偶相手のどちらか一方が必ず食われていることが明らかとなった。この例では♀機能を持つ個体が食われていることになり、カマキリやクモと同じ説明原理は当てはまらない。性的共食いは異なる分類群で並行に進化した同じ現象なのだろうか、それとも見かけが似ているだけで実はそれぞれに異なる現象なのだろうか？同種個体を殺す（食う）行動は特殊で異常な行動とみなされがちだが、子殺しの発見が（古典的な意味の）群淘汰の否定に繋がったように、詳細に検討することで普遍的な意味を見いだすことができる。性的共食いは進化の扉を開く第2の子殺しなのだ。

司会進行：関澤彩眞（大阪市大）

1. 中田兼介（京都女子大）

**「クモにおける性的共食い研究の現状：色男は血を流すか？」**

2. 高見泰興・森本 幸太郎・門井美佳（神戸大・人間発達環境）

**「チョウセンカマキリの性的共食い：リスクアセスメントと終末投資」**

3. 中嶋康裕（日大経済）・小蕎圭太（日大生物資源）・関澤彩眞（大阪市大院理）

**「食われる前に食え：キヌハダモドキ（ウミウシ）の性的共食い」**

## ラウンドテーブル⑤

# 行動生態学と群集生態学のフィードバック

日時：11月3日（月）9：00～11：00

会場：環境棟1階 141

主催者：川津一隆（龍谷大）・鈴木紀之（立正大）

企画趣旨：

“生物と環境との間の相互作用の科学”と定義される生態学は、興味のベクトルが異なるいくつかの分科を内包する。それらの中でも、行動や形質の適応的意義を解明する行動生態学と生物の数や分布に興味をもつ群集生態学は、どちらも生物が織り成す相互作用を問いの始点にする隣接した分野であるといえる。にもかかわらず（というか分かっている時点で当然といえばそうなのだが）、両者の学問的交流はこれまであまり進んでこなかった。

本ラウンドテーブルは、そのような現状を打破しシームレスな議論を行うために企画された。その目的達成のために、配偶システム・利他行動・表現型可塑性といった個体レベルの現象が、個体群動態・種の共存・食物網の安定性といった群集レベルの理解につながることを紹介する。さらに、高次の階層を理解することが行動学の新たな問いを生み出す可能性を議論する。すなわち、「行動から群集」という方向性に加えて「群集から行動」という循環を捉えることで、行動学者たちを謎多き群集研究に巻き込むことを目論む。

### 1. 鈴木紀之（立正大）

#### 「主旨説明」

### 2. 津田みどり（九州大）・中道康文（東北大）

#### 「個体群動態から個体行動を推定・検証する：侵入寄生蜂がもたらす寄主—寄生蜂系のカオスを例に」

### 3. 辻 和希（琉球大）

#### 「Extended phenotypes of behavioral ecology: 群集生態学はこれからの行動生態学のおいしい空ニッチ」

### 4. 高津邦夫（北大）

#### 「サンショウウオの個体のストイキオメトリーは共食い環境で二型化する：池の栄養動態に対する共食いの意味あい」

### 5. 川津一隆（龍谷大）

#### 「複雑“性”は安定をもたらす：性の観点から考える群集の複雑性—安定性問題」

## ラウンドテーブル⑥

# わが道をゆく ～「不可思議な賢者」 頭足類を訪ねる～

日時：11月3日（月）9：00～11：00

会場：環境棟3階 341

主催者：池田 譲（琉球大）・江島亜樹（東京大）

企画趣旨：

頭足類は一筋縄では理解できない動物である。軟体動物の一群に属しながら、イカとタコはヒト並みのレンズ眼を備え、巨大軸索に象徴されるように神経系が発達し、身体の大きさに比して巨大な脳をもつ。学習や記憶に長け、複雑な課題を容易に解いてしまうことなどから知的無脊椎動物として古くから欧州の研究者を魅了してきた。また、多彩で瞬時の体色変化は、イカ・タコを動物界屈指のカモフラージュの達人に君臨させてきた。しかし、これらのことと矛盾するように、イカ・タコはわずか1年ほどの短い生涯を駆け抜けるように生き、親による子育てもない。頭足類はその知を何のために備え、どのように用いているのか。このことは古くからの謎として残されている。近年、行動の読み解きから、あるいは行動の基盤である神経系の読み解きから、頭足類が残り続けている謎が少しずつ解き明かされつつある。本ラウンドテーブルでは、認知、脳、神経、社会といった側面から、頭足類を眺め、理解し、動物行動学の一対象として考える機会をもちたい。

1. 池田 譲（琉球大）  
「海の霊長類と呼ばれて－趣旨説明と序論に代えて－」
2. 滋野修一（海洋研究開発機構）  
「知性を支えるもの－脳の多様性の背景にある基盤構造を探る－」
3. 伊藤浩史（九州大）  
「艶やかさの動き－ケンサキイカ色素胞から探るリズムと温度の関係－」
4. 杉本親要（琉球大）  
「つながりが生む社会－アオリイカの群れ行動とソーシャルネットワーク－」
5. 江島亜樹（東京大）  
「ショウジョウバエの目から－無脊椎動物の生活感情－」

## ラウンドテーブル⑦

# まだ、ここにはない、群れ

## ～生物学と工学の連携から見えてくる群れ研究のブレイクスルー～

日時：11月3日（月）11：10～13：10

会場：環境棟1階 141

主催者：藤澤隆介（八戸工大）・水元惟暁（京大院・農・昆虫生態）

企画趣旨：

群れであることは、複雑な作業の効率化や膨大なタスクの分散処理といった難題の解決に強い力を発揮する。高度な群れとしての振舞いが個体の単純な行動からいかにして生じるかは、動物行動学のみならず人工物設計でも注目されており、特にネットワークの頑健性向上や、群ロボットシステム設計に大きく貢献してきた。

本ラウンドテーブルでは、生物学研究者と工学研究者が相互にオーバーラップする関心分野について各自の研究から話題提供する。まず下地が、アリコロニーの環境に対する柔軟な振舞いについて、個体・集団の異なる階層から議論する。それを受けて池本らが、ノイズに対する頑健性の観点からモジュラーネットワークの進化について話題提供する。続いて水元らが、シロアリの卵塊・蟻道の形成行動を用いて、自己組織化研究に見落とされてた視点にスポットを当てる。最後に藤澤が、構築物形成による外部環境の改変を行う群ロボットの開発という工学的アプローチを紹介し、生物学と工学の融合から可能になる概念的・技術的ブレイクスルーについて展望する。

1. 下地博之（北大院）

「トゲオオハリアリにおける順位行動から探る階層間相互作用」

2. 池本有助（富山大）・関山浩介（名大）

「ノイズに対するロバストネスとネットワーク進化」

3. 水元惟暁・岩田知歩・小林和也・松浦健二（京大院・農・昆虫生態）

「シロアリ社会における構築物形成の自己組織化」

4. 藤澤隆介（八戸工大）

「工学的手法による生物の振舞いの理解と応用」



# ポスター発表・前半

日時：11月1日13:00~17:00、2日9:00~12:00

場所：グローバル棟3階G-38 & G-3

**P1-01 プラナリアの再生能力を利用した摂食行動の解析**

○下山せいら・井上 武・阿形清和（京都大・院・理・分子発生）

**P1-02 ヒトデの起き上がり行動における階層的運動の効果**

○右田正夫（滋賀大・教育）・篠原修二（PST 株式会社）

**P1-03 アオリイカの性格と攻撃・防衛・社会場面における行動変異**

○西林孝紘（琉球大院・理工・海洋環境）・池田 譲（琉球大・理・海洋自然）

**P1-04 アオリイカは後ろの正面を見るのか？鏡像自己認知検証ふたたび**

池田 譲（琉球大・理・海洋自然）

**P1-05 化石産状からわかった絶滅生物の行動：中生代白亜紀のアンモナイト類を例に**

相場大佑（横国大・院・環境情報）

**P1-06 ヤドカリはどのようにして身体の大きさを知覚しているのか？**

○園田耕平（滋賀大・教育）・児玉 謙太郎（神奈川大・経済）・右田正夫（滋賀大・教育）・森山 徹（信州大・繊維）・郡司ペギオ幸夫（早稲田大・基幹理工）

**P1-07 テナガツノヤドカリの大形オスが繁殖期に脱皮して二次的性形質を縮小する**

井上明子・○古賀庸憲（和歌山大・教育）・吉野健児（佐賀大・低平地沿岸）

**P1-08 チゴガニの waving の同調と leading wave の優位性**

○河野容子（熊本大・院・自然科学）・林 悠真（熊本大・理）・逸見泰久（熊本大・沿岸域セ）

**P1-09 実験とモデルでみるミナミコメツキガニの群れの集団水わたり**

○村上 久・都丸武宜（神戸大・院・地惑）・西山雄大（大阪大・e-square）・森山徹（信州大・繊維学）・新里高行（筑波大・システム情報工学）・郡司ペギオ幸夫（早稲田大・表現工学）

**P1-10 ミナミコメツキガニのダミー個体への反応**

○川井春菜・森山 徹（信州大・繊維）

**P1-11 ミナミコメツキガニのダミー集団への反応**

○山田千恵・森山 徹（信州大・繊維）

**P1-12 ハクセンシオマネキの再生した巨大ハサミの有効性**

○岳野春菜・小島太一（熊本大・院・自然科学）・逸見泰久（熊本大・沿岸域セ）

**P1-13 ハクセンシオマネキにおける2つの交尾様式の成功度と巣穴装飾形質の関連**

○吉野健児（佐賀大・低平地沿岸センター）・古賀庸憲・山田純代（和歌山大・教育）

**P1-14 オカダンゴムシはどのようなときに丸くなるか**

鈴木誠治（北大院・農）

**P1-15 単婚制のジャコウアゲハにおける精子注入数と雌体内での精子動態**

○小長谷 達郎（筑波大・院・生命環境）・井戸川 直人（筑波大・生命環境）・渡辺 守（筑波大・院・生命環境）

**P1-16 フタイロカミキリモドキにおける性的形質と配偶行動の個体群間変異**

○里見太輔（鳴門教育大院・学校教育）・小笠 航・立田晴記（琉球大・農）・小汐千春・工藤慎一（鳴門教育大院・学校教育）

**P1-17 コクヌストモドキの移動距離への人為選抜が交尾に関する形質に及ぼす影響**

○松村 健太郎・宮竹貴久（岡山大・院・環境生命）

**P1-18 メールキラー感染に応じたクラッチサイズと栄養卵供給の調節**

○鈴木紀之（立正大・地球環境）、大野ゆかり（東北大・生命科学）、高倉耕一（滋賀県立大・環境科学）

**P1-19 ミツボシツチカメムシの家族融合は幼虫にとって利益になるか？**

○橋本泰樹（佐賀大・農）・向井裕美（森林総研・森林昆虫）・工藤慎一（鳴門教育大・院・学校教育）・野間口 眞太郎（佐賀大・農）

**P1-20 非致命的捕食による栄養卵生産の変化：終末繁殖投資と給餌能力補償**

○工藤慎一（鳴門教育大・院・学校教育）・向井裕美（森林総研・森林昆虫）・弘中 満太郎（浜松医大・生物）・野間口 眞太郎（佐賀大・農）

**P1-21 寄生卵の存在がアメンボの産卵に与える影響**

○平山寛之・粕谷英一（九大・理・生態）

**P1-22 変動する環境におけるナミアメンボの雄の配偶者選択**

○高橋 玄・渡辺 守（筑波大・院・生命環境）

**P1-23 落下反応におけるマルチモーダルな情報利用—若いカミキリほど良く落ちる？**

○深谷 緑・日下部 良康（日大・生物資源）・高梨琢磨（森林総研）

**P1-24 ミツカドコオロギの角は自身の質をあらわす信号か？**

栗和田 隆（鹿児島大・教育・生物）

**P1-25 サッポロフキバッタの雌による精子の排出と後脚の自切の影響**

○土屋香織・菅野良一・秋元信一（北大・農）・鈴木智之（東大・秩父演習林）

**P1-26 ヤマトシリアゲの雄による婚姻贈呈：運べないギフトをどう渡すのか？**

○長岡希隆（佐賀大・農）・向井裕美・所 雅彦（森林総研・森林昆虫）・山尾 僚（九大・理・生物）・野間口 眞太郎（佐賀大・農）

**P1-27 ライバルは気にしない：嗅覚系フェロモン馴化と求愛意欲**

橋 真一郎（大阪市大・院理）・東原和成・○江島亜樹（東大・農学生命、ERATO）

**P1-28 セーシェルショウジョウバエ雌の配偶者識別**

都丸雅敏（京工織大・ショウジョウバエ）

**P1-29 フタモンアシナガバチにおける子の価値に応じた巣の防御構造の構築**

○古市 生・粕谷英一（九大・理・生態）

**P1-30 ミツバチの採餌蜂は燃料として持ち出す蜜を選んでいる**

○原野健一（玉川大・ミツバチ科学）・林 雅貴（玉川大・院・農）・中村 純（玉川大・ミツバチ科学）

**P1-31 ミツバチのオス蜂はどこから出巣蜜を補給するのか？**

○林 雅貴（玉川大・院・農）・原野健一・中村 純（玉川大・ミツバチ科学）・佐々木 謙（玉川大・農・生物資源）

- P1-32 セイヨウミツバチにおける採餌距離に応じたダンス追従回数調節**  
○細野翔平（玉川大・院・農）・原野健一（玉川大・ミツバチ科学）・小野正人（玉川大・農）
- P1-33 一人暮らしは空き巣が怖い ー社会構造による巣穴防衛・採餌戦略の変化ー**  
○山本達紘（北大・院・農）・八木議大（北海道）・大久保 祐作・渡邊紗織・長谷川 英祐（北大・院・農）
- P1-34 クロオオアリの視覚的目印生成実験**  
○崎山朋子（神戸大・院・理）・郡司幸夫（早稲田大・理工）
- P1-35 ヤマトシロアリの新旧女王の交代はいつ・どのように行われるのか？**  
○南波佑介・矢代敏久・松浦健二（京大院・農・昆虫生態）
- P1-36 アリは互いのタスク分担を認識しているのか？～微小 IC タグで追跡調査～**  
○藪下正明・秋野順治（京工繊大・院・応生）
- P1-37 小さいアリたちのビッグなデータ解析**  
○山中 治・川本健太・藤井秀行・粟津暁紀・西森 拓（広大・院・理）
- P1-38 オオハリアリの侵略機構：融合コロニー制の有無を検証する**  
○末広 亘（京大院・農・昆虫生態）・辻 和希（琉球大・農・昆虫）・松浦健二（京大院・農・昆虫生態）
- P1-39 時系列解析を用いた社会性昆虫の集団行動における個体間影響度の定量化**  
○阿部真人（東大・院・広域システム）・中山 新一朗（中央水研）・藤岡春奈（中央大・理工）・岡田泰和・嶋田正和（東大・院・広域システム）
- P1-40 チェリーバルブの雌の体色と繁殖の関連**  
三重野 晶（東京学芸大・院）・○狩野賢司（東京学芸大）
- P1-41 協同繁殖魚 *Neolamprologus pulcher* の顔認識能力の検討**  
○谷山雅美・堀田 崇・幸田正典（大阪市大・院・理）
- P1-42 カワヨシノボリにおけるメスの配偶者選択の基準とオスの卵保護との関係**  
○松田咲実（岡山理大・院・生地）・中村圭司・武山智博（岡山理大・生地）
- P1-43 ミスジリュウキュウスズメダイの逆方向性転換と低密度仮説**  
○桑村哲生（中京大・国際教養）・鈴木祥平（琉球大・瀬底）・門田 立（水研セ・西海水研）
- P1-44 口永良部島におけるフタスジリュウキュウスズメダイの性転換能力**  
坂上 嶺（広島大・院・生物圏）
- P1-45 ちょっとおじゃまな居候？～共生ハゼやテッポウエビとハナハゼの関係～**  
○木村瑞紀（東海大・院・海洋）・小川和裕・松本 総一郎（東海大・海洋）・中地シュウ（黒潮生物研究所）・中野正夫（sea horse）・赤川 泉（東海大・海洋）
- P1-46 館山湾におけるペラ科ホンペラの生活史と性転換**  
○下光利明・須之部 友基（海洋大・館山ステーション）

- P1-47 ベニハゼ属カスリモヨウベニハゼに見られる幼時雌雄同体現象と配偶システム**  
○福田和也・須之部 友基（海洋大・館山ステーション）
- P1-48 ダンダラトラギスの産卵時間帯における雄の行動活性と月齢の関係**  
○小木曾 恵太・須之部 友基（海洋大・館山ステーション）・鈴木祥平（沖縄大学院大学）・桑村哲生（中京大・国際教養）
- P1-49 ヘビギンボ雌の配偶者選択における他雌の影響：水槽実験による検証**  
○小見山 史穂・太田和孝・幸田正典（大阪市大・理）
- P1-50 ヨウジウオ科魚類における配偶システム多様化の至近要因と系統的制約**  
曾我部 篤（東北大・臨海）
- P1-51 性的二型の小さい交尾魚キリンアナハゼの雄の交尾成功を決める要因**  
○上松沙織（新潟大・院・自然科学）・安房田 智司（新潟大・理・臨海）
- P1-52 体サイズ、群れサイズ、日周期で異なるブリ属稚魚の流れ藻への寄り付き行動**  
○高月直樹（長大院水環）・河端雄毅（長大海セ）・長谷川 隆真・阪倉良孝・岡村琴江（長大院水環）・Gregory N. Nishihara・河邊 玲・石松 惇・征矢野 清（長大海セ）・山田弥知・木下 宰・山脇信博・森井康宏（長大水）
- P1-53 魚類の異常行動と地震に関する研究**  
○矢田直之（神奈川工大・工）・三井美佳（神奈川工大・院・工）
- P1-54 アカハライモリは危険な餌：シマヘビは遭遇経験なしでもにおいて忌避するか**  
○吉村友里（九大院・農）・粕谷英一（九大・理・生物）
- P1-55 アカガエル属 2 種のカエルの繁殖期の雄における雌の鳴き声に対する反応**  
伊藤 真（京大院・理・動物行動）
- P1-56 アリスイにおける同性ペアによる繁殖の確認**  
○加藤貴大（総研大・先導研）・橋間清香・上田恵介（立教大・理）
- P1-57 ブンチョウのリスク感受性と社会的順位**  
○渡邊綱介（北海道大・院・生命科学）・松島俊也（北海道大・院・理学研究）
- P1-58 ソングバードの発声パターンの個体差の出現及び生成要因に関する研究**  
○佐藤大介（北海道大学・院・生命科学）・和多和宏（北海道大学・理学研究院）
- P1-59 愛をうたい踊る：カエデチョウ科鳥類の求愛行動の進化**  
○相馬雅代（北大・院理・生物）・Laszlo Zsolt Garamszegi（CSIC）
- P1-60 オサハシブトガラスの音声は環境に適応した音響特徴を持つか？**  
○近藤紀子（JSPS、総研大・先導科学）・山崎剛史（山階鳥研）・長谷川 眞理子（総研大・先導科学）
- P1-61 ハシブトガラス若鳥集団における相互羽繕いの機能**  
○宮澤絵里（慶応大・院・心理）・伊澤栄一（慶応大・心理）

- P1-62 新潟県粟島のオオミズナギドリ雄の採餌行動の年比較：異なる2つの海域をどのように選択するのか？**  
○松本祥子・依田 憲（名古屋大・院・環境）・山本麻希（長岡技科大・生物）
- P1-63 タンチョウにおける集団内ディスプレイの機能**  
武田浩平（総研大・先導研）
- P1-64 ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis* の給餌生態から見る繁殖場所選択の意義**  
○大久保 明香（弘前大・院・農学生命）・佐原雄二・東 信行（弘前大・農学生命）
- P1-65 特性の異なる測定装置によるマウスの探査行動の相似測定項目の比較**  
○田中豊人・小縣昭夫・猪俣明子・中江 大（都健安研）
- P1-66 長大な犬歯の進化：絶滅生物 vs. 現生生物における方向性選択の比較**  
○原野智広・沓掛展之（総研大・先導科学）
- P1-67 疑似蛾を用いたコウモリの採餌飛行戦略の高度音響分析-ビーム制御機構の検討-**  
○緒方大樹・大田 将太郎・山田恭史・渡辺好章・力丸 裕・太田哲男・飛龍 志津子（同志社大・生命医科）
- P1-68 空間情報の記憶を考慮したコウモリの飛行軌跡の数理モデル**  
○松口 大志朗・伊藤 賢太郎（広島大・理）・山田恭史・岡 有恵・飛龍 志津子（同志社大・生命医科）・小林 亮（広島大・理）
- P1-69 ハンドウイルカやハナゴンドウは利他的に振る舞うか？**  
○中原史生（常磐大）・駒場昌幸・佐藤瞭一・池田 比佐子・駒場 久美子・松谷綾夏・川久保 晶博（九十九島水族館）
- P1-70 野生イルカはどのように水中遊泳者に接近するか？**  
○榊原 香鈴美（京大・院・野生研）・小木万布（御蔵島観光協会）・酒井麻衣（東海大創造機構、JSPS）・森阪匡通（東海大創造機構）・幸島司郎（京大・野生研）
- P1-71 ベイズ推定によるチンパンジー雄の順位変遷予測**  
○長谷川 克・沓掛展之（総研大・先導研）
- P1-72 野生チンパンジーの遊び場**  
島田将喜（帝京科学大・アニマルサイエンス）
- P1-73 ヒトの少子化のメカニズム：未婚率の上昇 vs. 夫婦出生率の低下**  
○森田理仁（総研大・先導科学/JSPS）・大槻 久・長谷川 眞理子（総研大）
- P1-74 相手の振る舞いにどう応答するか ～協力における意思決定様式の進化～**  
○伊藤公一（京大生態研）・John McNamara (Bristol Univ.)・山内 淳（京大生態研）・Andrew Higginson (Bristol Univ.)
- P1-75 繁殖投資量を親・子どもどちらがコントロールするかは、可塑的に変化するのか？**  
○高田 守・小山哲史（農工大・農）

# ポスター発表・後半

日時：11月2日13:00~16:00、3日9:00~13:00

場所：グローバル棟3階G-38 & G-3

**P2-01 マナマコの物理環境的選好性：光・接触・重力および波浪刺激に対して**

○山口真以（京都大・院・農）・益田玲爾・山下 洋（京都大・フィールド研）

**P2-02 アオリイカの群れは特定の個体により誘導される**

○杉本親要（琉球大院・理工）・池田 譲（琉球大・理・海洋自然）

**P2-03 アオリイカにおける同種個体認知能の検証**

○青 徹（琉球大院・理工・海洋自然）・池田 譲（琉球大・理・海洋自然）

**P2-04 VR映像を用いた捕食脅威がトラフコウイカの体色表出に与える影響の検証**

○岡本光平・森 哲（京大院・理・生物）・池田 譲（琉球大・理・海洋自然）

**P2-05 加速度ロガーを用いたエゾアワビ繁殖行動のモニタリング**

○松本 有記雄・高見秀輝（水研セ東北水研）

**P2-06 ホンヤドカリは遭遇履歴に応じてオス間闘争時の攻撃回数を変える**

○松尾謙人・安田（石原）千晶・和田 哲（北大院・水産）

**P2-07 ハサミモデルを使ったチゴガニの waving 機能の解析**

○逸見泰久（熊本大・沿岸域セ）・泉 大智・河野容子（熊本大・院・自然科学）

**P2-08 スナガニの歩容の数理モデル**

○村松拓哉・松口 大志朗・伊藤 賢太郎・小林 亮（広大院・理）

**P2-09 ミナミコメツキガニの概潮汐リズム**

○森山 徹（信州大・繊維）・渡辺 信（琉球大・熱生研）

**P2-10 ミナミコメツキガニの群れにおける情報の流れ**

○都丸武宜・村上 久（神戸大・院・理）・西山雄大（大阪大）・園田耕平（滋賀大・教育）・森山 徹（信州大・繊維）・郡司ペギオ幸夫（早稲田大・理工）

**P2-11 ハクセンシオマネキの求愛音における個体間変異とその発音方法**

竹下文雄（長崎大・院・水環）

**P2-12 ハクセンシオマネキ (*Uca lactea*)の巣穴をめぐる雄間競争、および繁殖期の放浪雄増加**

○小泉智弘・朝倉 彰（京都大・瀬戸臨海）・古賀庸憲（和歌山大・教育）

**P2-13 干潟のカニにみられる異種間コミュ干潟のカニにみられる異種間コミュニケーション**

村松大輔（京大・野生動物）

**P2-14 ハダニの交尾前ガード行動と捕食リスク：気にする♀としない♂**

○奥 圭子（JSPS 海外学振； Wageningen University, NL； 農研機構・中央農研）・Erik H. Poelman・Peter W. de Jong・Marcel Dicke（Wageningen University, NL）

- P2-15 アリゾナ砂漠における単婚制のアオジャコウアゲハの雌の卵生産と保有精子数**  
○鈴木瑞穂・小長谷 達郎・武藤直樹・渡辺 守（筑波大・生物）
- P2-16 一部の甲虫はなぜ鞘翅を閉じたまま飛翔するのか**  
小島 渉（東大・総合文化）
- P2-17 ナミテントウは強い虫？ ～捕食性テントウムシ幼虫の餌適性と落下行動～**  
村田篤志（常総学院高等学校）
- P2-18 上野原市仲山川におけるゲンジボタルの生息に影響を与える環境要因について**  
○吉原隆貴（帝科大・院・アニマル）・花園 誠（帝科大・こども）
- P2-19 雄間闘争に弱い雄は、やっと手に入れた雌への束縛が強いのか？**  
日室千尋（岡大院・環境・進化、学振 PD）
- P2-20 ベニツチカメムシの親は巣への捕食リスクに応じて給餌頻度を変化させるか？**  
松田 慎・○野間口 眞太郎（佐大・農）
- P2-21 アメンボ 2 種において、異種の存在が産卵に与える影響**  
○直塚翔吾（九大・システム生命・生態）・平山寛之・粕谷英一（九大・理・生態）
- P2-22 渡りを行なうウスバキトンボの摂食量と卵生産**  
○市川雄太・渡辺 守（筑波大・院・生命環境）
- P2-23 オンブバッタの性的二型に起因する体温をめぐる性的対立**  
○井出純哉・河野貴昭（久留米工大・工・教育創造工）
- P2-24 いつやるの?? いままでしょ!! 性選択の選考性と各種リスク回避**  
大久保 祐作（北大院・農）
- P2-25 感覚器官を破壊されたニシキリギリス *Gampsocleis buerugeri* の配偶行動**  
○窪田蒼起（鳥取大・院・農）・廣田竜也・田中良佑（鳥取大・農）・和田一郎（飯能市）・望月 淳（農環研）・中 秀司（鳥取大・農）
- P2-26 ドーパミントランスポーターによるショウジョウバエの行動制御**  
○上野太郎（東京都医学研・学習記憶）・糸 和彦（名市大・薬学）
- P2-27 必殺技を封印するとき—テナガショウジョウバエの求愛における聴衆効果—**  
○瀬戸口 栞・工藤愛弓（東京大・院・農）・高梨琢磨（森林総研）・石川幸男・松尾隆嗣（東京大・院・農）
- P2-28 ベルシカラーアシナガバチにおける社会構造**  
○高橋裕美（新潟大・院・教育）・山田彩乃・工藤起来（新潟大・教育）
- P2-29 多女王制アシナガバチにおける遺伝的分業仮説の検証**  
○柳岡優里・工藤起来（新潟大・教育）
- P2-30 ミツバチワーカーと雄のチロシン摂取による脳内ドーパミン量への影響**  
佐々木 謙（玉川大・農学部・生物資源）

- P2-31 ミツバチ雄の幼若ホルモン類似物質による脳内ドーパミン合成酵素への作用**  
○松島啓将 (玉川大・農・生物資源)・目澤龍介 (金沢工大・応用バイオ)・佐々木 謙 (玉川大・農・生物資源)
- P2-32 転んでもタダじゃ帰ってこないぜ — 学習して賢くなる雄蜂**  
○林 晋也・小山哲史・佐藤俊幸 (農工大・農)
- P2-33 他の雌と一緒に寄生するのを好む寄生バチ *Melittobia***  
○柳澤宏秋・安部 淳 (神奈川大・理・生物)
- P2-34 多女王制オオアリに共生するウイルスは何をしている？**  
小山哲史 (農工大・農)
- P2-35 アリのアブラムシ認識メカニズム：社会的学習の関与**  
○林 正幸・野村昌史 (千葉大院・応用昆虫)
- P2-36 餌を食べる前後でのアリの脳内物質の変化と行動との関連**  
○藤井秀行・山中 治・川本健太 (広島大・院・理)・小澤優樹 (広島大・理)・泉 俊輔・粟津 暁紀・西森 拓 (広島大・院・理)
- P2-37 アルゼンチンアリのスーパーコロニーにおける遺伝子流動と行動特性**  
○井上真紀 (農工大院農)・五箇公一 (国立環境研究所)・伊藤文紀 (香川大農)
- P2-38 協同的一妻多夫魚の雌による雄の父性認識の操作**  
○李 寧・幸田正典 (大阪市大・院・理)
- P2-39 グラスキャットフィッシュの忌避行動における正弦波電気刺激周波数依存性**  
○立野勝巳・蛭田昌也 (九工大・院・生命体)
- P2-40 カワスズメ科魚類における八つ当たり行動の頻度を決定する要因**  
○伊藤宗彦・山口素臣・沓掛展之 (総研大・先端科学)
- P2-41 グッピーのメスの好みは遺伝するのか?しないのか?**  
○佐藤 綾 (東京学芸大・教育)・河田雅圭 (東北大・院・生命科学)
- P2-42 カクレクマノミの卵内学習: 宿主探しの手がかりは両親の宿主から**  
○幸島和子 (京大野生研)・沖縄美ら海水族館サンゴグループ・宮原弘和・内田詮三 (沖縄美ら海水族館)
- P2-43 ナメラヤッコ高密度個体群におけるハレム構造**  
○佐々木 司・富山 毅・坂井陽一 (広島大・院・生物圏)
- P2-44 ホンソメワケベラによる推移的推察能力の解明**  
○上野 健太郎・堀田 崇・幸田正典 (大阪市大院・理)
- P2-45 館山湾におけるベラ科オハグロベラ雄の密度と繁殖行動の多様性**  
○清水庄太 (海洋大・館山ステーション)・遠藤周太 (葛西臨海水族園)・佐々木 雅大 (城崎マリンワールド)・須之部 友基 (海洋大・館山ステーション)



**P2-46 ハタ科クエのハレム構成要員の動態**

○野際はるか（海洋大・館山ステーション）・塩田 寛（伊戸ダイビングサービス）・須之部 友基（海洋大・館山ステーション）

**P2-47 タネギンボの半陸上生活は採餌の利点を伴っているのか？**

○木村祐貴・坂井陽一（広島大・院・生物圏）

**P2-48 マゴチ (*Platycephalus* sp.) の雄性先熟性転換と配偶システム**

○原 若輝・須之部 友基（海洋大・館山ステーション）

**P2-49 海底に潜って夏眠する魚、イカナゴの好む砂とは—潜砂底質の選好性実験**

○岩崎菜美（広島大・生生）・柴田淳也（広島大・環境セ）・富山 毅・坂井陽一（広島大・院・生物圏）

**P2-50 魚とホヤの切っても切れない関係**

○安房田 智司（新潟大・理・臨海）・後藤智仁（新潟大・理・生物）・古屋康則（岐阜大・教育）・武島弘彦（東大・大気海洋研）・山崎 彩（北大・院・環）・宗原弘幸（北大・FSC）

**P2-51 最適逃避方向理論：動物はどの方向に逃げるのが最適か？**

河端雄毅（長崎大・海セ）

**P2-52 同一捕食者に対する防御行動の違い。トカゲとカナヘビの尾振り行動の比較**

原田龍一（滋賀県立大学・環境科学部）

**P2-53 クローン動物（オガサワラヤモリ）の個性：成長にともなう個性の多様化**

酒井 理（京大・院・理）

**P2-54 バイオロジカル・モーションは刻印付けを促進する**

○三浦桃子（北大生命科学院・JSPS）・松島俊也（北大院理学）

**P2-55 文鳥の造巢における雌雄の労働分担とヒナ時の経験 ～夫を支える内助の功～**

○阿部万純（北大・院・生命）・岡野淳一（京大・生態学研究セ）・相馬雅代（北大・院理・生物）

**P2-56 キンカチョウヒナの孵化順と成長度合いに関する考察**

○池淵万季（JST・ERATO 岡ノ谷情動情報、理研、学振、東大、Bielefeld 大学）・長谷川 寿一（東大）・Hans-Joachim Bischof（Bielefeld 大学）・岡ノ谷 一夫（JST・ERATO 岡ノ谷情動情報、理研、東大）

**P2-57 歌発達における親子関係の重要性：社会性は歌学習を促進するか？**

○松田和紗（北大院・生命システム）・相馬雅代（北大院・理・生物科学）

**P2-58 ジュウシマツの規則学習：音圧変化規則の抽象化**

○大澤歩美（東京大学・総合文化・院）・尾島司郎（滋賀大）・岡ノ谷 一夫（東京大学・総合文化）

**P2-59 ハシブトガラス (*Corvus macrorhynchos*) の到達・把握運動の運動学的解析**

○松井 大（慶應大・院・心理）・伊澤栄一（慶應大・文）

**P2-60 ウミネコの渡り行動はどの程度個体内で一貫しているのか**

○永田瑞穂・水谷友一・依田 憲 (名大院・環境)・新妻靖明 (名城大・農学)

**P2-61 雛の正直な餌乞いに対してオオミズナギドリはどのように最適給餌するのか？**

○依田 憲・小川昌宏・塩崎達也・白井正樹・Martina S. Müller (名古屋大・院・環境)・山本麻希 (長岡技科大・生物)

**P2-62 野外におけるトキ幼鳥の採餌行動の発達過程**

○永田尚志・中津 弘 (新潟大・朱鷺自然再生学研究センター)

**P2-63 ネズミはやっぱりチーズ好き –ラットおよびマウスでのチーズ選好実験–**

○中島定彦・木原千彰・金下真子 (関西学院大・文・総合心理)

**P2-64 ネコは自分の名前がわかるか？**

○齋藤慈子・伊東夕貴 (東京大・院・総合文化)・篠塚一貴 (理研・BSI)・長谷川 寿一 (東京大・院・総合文化)

**P2-65 スピン行動とターン行動におけるイヌ (*Canis lupus familiaris*) のラテラルティ**

○陳 香純・太田 夕加里 (関学大・院・文)・中島定彦 (関学大・文)

**P2-66 大規模マイクロホンアレイを用いた野性コウモリの混信回避行動の分析**

○依本姫里・近藤 大・藤岡慧明・渡辺好章・カ丸 裕・太田哲男・飛龍 志津子 (同志社大・生命医科)

**P2-67 母ウマによる授乳忌避と子ウマの吸乳前行動 -子ウマの体重増加との関係-**

森 佳菜子・後藤紀貴 (岐阜大・応用生物)・佐藤文夫 (JRA・日高育成牧場)・○二宮 茂 (岐阜大・応用生物)

**P2-68 出生から1年間の飼育バンドウイルカの睡眠行動の発達**

○関口雄祐 (千葉商大)・井上 聡・荒井一利 (鴨川シーワールド)

**P2-69 フサオマキザルの警戒音声の文脈転用**

○香田啓貴 (京大・霊長研)・Klaus Zuberbuler (University of Neuchatel)

**P2-70 青色を避けるアカエリマキキツネザル (*Varecia rubra*)**

○井上紗奈 (日大・生物資源)・新藤いづみ (野毛山動物園)

**P2-71 「利他的な嘘」における目の効果**

○小田 亮 (名古屋工大・院・情報)・加藤雄大 (名古屋工大・情報)・平石 界 (安田女子大・心理)

**P2-72 大型飼育動物の摂取エネルギーに関する研究**

○三好智子 (高知大・院・生物)・加藤元海 (高知大・黒潮圏)

**P2-73 移動速度と視力の関係 : Leuckart's Law の理論的研究**

○里居伸祐 (九州大・システム生命)・巖佐 庸 (九州大・理)

# ビデオ発表

日時：11月2日 前半 9：00～10：30、後半 14：45～16：00

場所：グローバル棟 4階 文教スカイホール

## 前半

- V1-01 09:00- Association of mimic juvenile fish with mangrove plants: insight into the use of mangrove habitats as nurseries for juvenile fish**  
○Breno Barros (Biosphere Sci., Hiroshima Univ.; Federal University of Para ) & Yoichi Sakai (Biosphere Sci., Hiroshima Univ.)
- V1-02 09:15- ギンメッキゴミグモに見られる交尾器切除によるメスの去勢**  
中田兼介 (京都女子大)
- V1-03 09:30- バッタの排泄行動：オンブバッタにおけるフンけり行動の定量的解析**  
○今坂亮介 (九大院・シス生・生態研)・粕谷英一 (九大・理・生物)・田中陽介 (多摩動物公園)
- V1-04 09:45- 球状のゆりかごを作るオトシブミ P. r.とゾウムシ S. f. - (1) それぞれの作り方**  
櫻井一彦 (成城大・社会イノベーション)
- V1-05 10:00- ルリガシラセイキチョウのタップダンス様求愛ディスプレイ**  
○太田菜央 (北大院・生命科学)・Manfred Gahr (Max Planck Institute for Ornithology)・相馬雅代 (北大院・理・生物)
- V1-06 10:15- 海底に精巧な「ミステリーサークル」をつくるフグは芸術家か？**  
川瀬裕司 (千葉中央博・海)

## 後半

- V2-01 14:45- 熱帯雨林に生息するネズミヤマアラシの生態:巣穴利用と夜間行動**  
○松川あおい・幸島司郎 (京大野生研)・Abdul Hamid (サバ大)
- V2-02 15:00- 単独性のスナメリが成す大群は“烏合の衆”か？**  
○篠原正典 (帝京科学大・生命環境)・中原史生 (常磐大)・白木原 美紀 (東邦大・理)・白木原 国雄 (東京大・大海研)
- V2-03 15:15- キヌハダモドキの性的共食いの発達**  
○小蕎圭太 (日大・生物資源)・関澤彩真 (大阪市大・院理)・中嶋康裕 (日大・経済)
- V2-04 15:30- ヘビの攻撃を待ってから逃げ始めるカエルの捕食回避術**  
○西海 望・森 哲 (京大・理・動物)
- V2-05 15:45- 食物が乏しく捕食者がいない? : 小笠原諸島のウグイスの育雛行動**  
○濱尾章二 (国立科学博物館・動物研究部)・葉山雅広 (東北鳥類研究所・小笠原支部)